
BLUE SKY - ORANGE SKY

加藤 雅俊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B L U E S K Y - O R A N G E S K Y

【Nコード】

N 0 9 7 4 P

【作者名】

加藤 雅俊

【あらすじ】

これまでの僕自身の経験・考えを書いていきます。

(前書き)

よろしく願います。

BLUE SKY
ORANGE SKY

加藤 雅俊

この作品をこれまで出会った人々へ贈ります。

妻、両親、義父、義母、兄弟、親類の方々、感謝しています。ありがとうございます。

Double Orangeのちづるさん、たかマスターさん、チームDouble Orange、Double Orangeフアンの方々、ありがとうございます。

O . BLUE SKY

ただ、ただ、青い空が広がっていた。

僕はその空のもと、これまで、ただ・・・ただ・・・生きていた。

ほとんどの時間、僕は「シンデイタ」。これからはもっと「イキテル」時間を増やしたいと思う。

僕の夢はもうかなえることはできないけれど、僕ができることはやっておきたいから。

絶望の中で「イキル」ことはツライことだけれど。

こんな僕を支えてくれるヒトや、僕以上に頑張っている多くのヒトがいることを知ったから。

多くのヒトが本当に「イキル」ことに気付くことができれば、何かは変われると思う。

そう信じてみようと思う。

1. 記憶？

僕の一番古い記憶。

それは母方の祖父の家の近くにあった公園の風景だ。

これは画像として記憶に残っているだけ。

電車の音もある。こちらは画像はおぼろげで、思い出せない。

おそらく、祖父が線路の近くまで連れて行ってくれていた時に聞いた電車の音だと思う。

その次に古いのは、祖父のお葬式の様子だ。

これはなぜか小さい自分が椅子から落ちて泣いたり、母と思われる人におぶさっている姿が映像のように残っている。そう、自分自身が映像として見える。

おそらくこれは後々になってから、祖父のお葬式を行っている時（お経を唱えている時）に自分が椅子から落ちて泣いて、外で誰かの背におぶさっていたということを聞いて、つくり出された記憶だと思われる。

不思議なことだけれど、この時のことを思い出すと、いろいろな角度から自分自身を映像としてみるができる。

高い位置から自分がおぶさっている姿、ズームアップして泣き止んだ顔。

つくりだされた記憶だからこのようなことができるのだろう。

皆さんもそんな記憶、ありますか。

今まであまりこのような話をしてこなかったなので、他の人もそうなのか気になっているんですけど。

祖父の葬儀の記憶。

僕は、僕の心の奥底にいる僕がこの記憶を強く意識したいから、このような記憶のようなものがあるように思っています。

人の死。 生命の終わり。

それが心の奥底にいる僕にとっては非常に重要なものと意識したのでしょうか。 きっと。

2 . 記憶？

3 . 記憶？

4 . 記憶？

0 . ORANGE SKY

これから空はオレンジ色に染まろうとしている。

僕は . . . 僕は . . .

僕は、これからの道を選ばなければならない。
もう遅すぎるぐらいだ。

数秒後、数分後に死んでいる可能性だってあるのだ。

僕は何をし、何を残すのかだけでも決めなければ、僕は後悔すると

思う。

この作品を書いた理由、それは自分自身に対して、そのことを伝えるためだと思う。

川上さん、篤さん、僕は君達のようにはなれないけれど、僕は僕なりのことをしようと思う。

それを見ていてほしい。

オレンジ色の空、とても綺麗だ。

これから僕はオレンジ色の空のもとを生きて、イキテイク。

また、シンデシマウことがあると思うけれど。

イキテイル時間を増やし、いろいろなことを発信していきたいと思う。

オレンジ色の空を見つめながら。

僕はイキルンダ。

追記

誰かが言っていた。

「自分以外のヒトの心を変えることはできない。変えることができるのは自分自身の心だけだ。」と。

確かにそうだと思う。だけれど、誰かの心を変えるキツカケをつく

ることをヒトはできると思う。

そう僕は信じて、この作品を僕はつくる。

この作品がキツカケになるヒトが1人もいなくても、失敗に終わつたとしても、作品をつくり続けていきたい。

これも誰かが言っていたことだけれど、「何事もあきらめず、やり続けていれば、きっとやり遂げることができる。」と。

多くのヒトがいろいろな事情があつて、夢の実現とかをあきらめてしまうことが多いと思う。

でも、きつと、どんな形でもあきらめずに、ずっと行動を続けられれば、何かを起こすことはできると信じてみませんか。思ったことに近いことが実現するのは50年後かもしれないけれど。

もしかすると、自分自身が死んでしまった後になるかもしれないけれど。

あきらめてしまえば、そこでオワリということが決まってしまう。どんな形でもいいから、続けていきませんか。いつか実現することを信じて。

自分でオワリと決めるのではなく、またいつか再開することを心に秘めておく、という形でもいいと思うんです。僕も実はそう思いながら、生きていくと思うんです。

シンデイル時間が長く続いても、短いイキテイル時間に行動すれば良いと思っています。

僕は、どうしても絶望の中に居座ってしまうことが多いけれど。

時々、希望のようなものが見えたとしても動けないことが多いけれど。

絶望の中、希望をつかむことができなくても、希望を見続けることができた時だけでも、ただ生きているのではなく、本当の意味でイキテ、作品をつくるようにしたいと思う。

僕以上の絶望の中で苦しんでいるヒトがいると思います。

そんなヒトに僕の作品は役に立たない気がするけれど。

シンデイル状態では何も変わらないのだから、ツライと思うけれど、少しの時間でも良いからイキテイル時間をつくってほしい。

僕のことを知っている人が、僕がこんなことを言ったことを知ったら、きっと笑われてしまうと思うけれど。

まだ死んでいない、生きているのだから。少しでもイキテイル時間を過ごせることを願っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0974p/>

BLUE SKY - ORANGE SKY

2010年11月23日23時25分発行